

CLUB NEWS

2021-2022年度 奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために
国際ロータリーテーマ



vol.
1275

2020・2021
MEETING

〒990-0031 山形市十日町1-1-26 歌懸稲荷神社社務所ビル2F TEL(023)632-7777 FAX(023)624-5200

例会 毎週火曜日12:30~13:30(但し第5週は18:30~) 会場 ホテルメトロポリタン山形

- | | | |
|-----------------|---------------|--------------------------|
| ■ 会 長 長橋 正人 | ■ 職業奉仕 今野久仁正 | ■ 副 幹 事 佐竹 猛 |
| ■ 会長エレクト 石山 徳昭 | ■ 社会奉仕 諏方 均 | ■ 会 計 阿部 美春 |
| ■ 副 会 長 玉ノ井憲史 | ■ 青少年奉仕 鹿野 淳一 | ■ S A A 柴田 修英 |
| ■ 直前会長 小林 敏郎 | ■ 国際奉仕 奥山 宏 | 国際ロータリー会長 シェカール・メータ(インド) |
| ■ クラブ管理運営 相川 博昭 | ■ 幹 事 佐藤 太 | 第2800地区ガバナー 矢口 信哉(東 根) |
| | | 第5ブロックガバナー補佐 結城 和生(山形 西) |



奉仕しよう みんなの
人生を豊かにするために

◆日時/2021.12.14 12:30 ◆例会場/ホテルメトロポリタン山形 ◆ソング/奉仕の理想

会長挨拶



皆さんこんにちは。最初に、本日のゲストをご紹介致します。板垣鶏卵様代表の板垣美和(みわ)様です。本日の卓話の講師をお務め下さいます。本来であれば8月24日の例会でお話頂く筈でしたが、当時山形県内で新型コロナの感染者が増加傾向にあった為、例会が中止となり本日に変更して頂きました。板垣さまには年末のお忙しい処、ご無理をお聞き届け下さいました事に改めて感謝申し上げますと共に、色々お手配頂いた高橋プログラム委員長にもお礼申し上げます。後程宜しくお願い致します。

さて、本日12月14日は皆さんご存知の赤穂浪士討ち入りの日であります。元禄15年(西暦1703年)旧暦の12月14日未明の出来事ですが、今日は視点を変えて、この一連の事件を現代法で裁いたらどうなるのかをお話してみたいと思います。青柳さんというプロもいらっしゃるので、あくまでネタとしてお聞き頂きたいのと、討ち入りに絞ってのお話ですので必要以上に突っ込まないで下さい。さて、実際に討ち入った47名にはまず刑法208条の2「凶器準備集合罪」が適用されます。市街地で相手の住居に予め準備して武器をもって押し入ろうという目的ですから当然かと思えます。次に47名は刑法60条の「共同正犯」というよりも必要的共犯の集団犯かと思われるそうです。これは実際に大石内蔵助が討ち入り

際し、功績を争って全体行動が乱れぬ様「首を取ったものも庭の見張りの者も亡き殿のご奉公では同一」と取り決めを言い渡し、全員がこれを承諾しており、しかも47名の人数に至るまでの経過で「参加、不参加は各自の自由」として参加の強制、積極勧誘を行っておらず、各人は自由意志のもとに集合し役割分担を行っているからだとの事です。更に吉良上野介義央他数名に対する殺人罪、傷害罪、住居侵入罪、器物損壊罪などが適用されるそうです。実際裁判になった場合、どの程度の罪になるかは青柳さんに個人的にお訊ね頂けたらと思います。因みに47人に対する判決は「打ち首」ではなく「切腹」でしたが、当時の武士社会にとって斬首と切腹は天地の違いがあった訳で、これは討ち入りの原因となった浅野内匠守の刃傷事件に対する幕府が下した裁定が誤審であったと、公式には認めないが実際には認めざるを得ず、また47人を忠義の士として讃える世論の影響もあっての事の様です。その結果「浅野家処分という幕府決定に叛いた点は不届きながら(幕府の誤審はないよ!)、忠義の誉れ高く評する点を鑑み(でもやっぱり忠義は大事だよね!)、切腹の名誉を与える(こんな落としどころでどう?)という結果に落ち着いた事は皆さんご承知の通りです。「本音」と「建前」が見事に使い分けられた格好の事例ではないでしょうか?

本日も宜しくお願い致します。

本日出席・修正出席

	会員総数	出席義務出席数	出席会員数	出席率
本日出席	38名	—	20名	—
修正出席				
他クラブでメイクアップされた会員				



ゲスト卓話

食の安心安全は自らの手で

板垣養鶏場 代表 板垣美和氏

自己紹介

こんにちは。私は寒河江市で養鶏場を経営しております板垣美和と申します。現代の養鶏場は5万羽、10万羽単位で経営しているところがたくさんあります。逆にそのくらいの規模でないとエサ代などを安く仕入れられずコスト高になってしまい、やっていけなくなるからです。そのような中、私たちの養鶏場はほんの1万羽程度の規模です。本当に小さな養鶏場なんです。経営形態も、おじいちゃん・おばあちゃん・私たち夫婦、あとはパートさん3人でまわしています。

基本的に養鶏場というのは、卵を集めて洗卵して重量を量り、箱詰めして後は市場なり農協など卸問屋さんに出荷して一連の作業は終了なのですが、私の養鶏場は祖母の代から自分たちで売りさばきに出かけなければなりません。ですから2代目の父も、卵の生産が忙しくても、逆に余ったとしても市場や農協に持っていかうという考えは一切ありませんでした。どうしたらこの量の卵を売りさばけるか、いつもそのことを考えていました。

見える生産者の「人格」

今の時代、「生産者の顔が見える商品」などの生産者の写真が貼ってある商品がありますが、我々は「顔」どころか生産者が売りに来るので、生産者の「人格」までお客様に見ていただけます。そうすると色々なお客さんがいて、特に少しばかり畜産をかじっているような方だと、「どんなエサを作っているのか」とか「鶏の鶏種は何だ」、他には「飼い方は平飼いかケージ飼いか」などたくさんの質問をいただきます。

放し飼いは本当に良い？

確かに、放し飼いや平飼いやだと、鶏たちがのびのび走り回って丈夫な鶏が育つのではというイメージでしょうが、現実とは逆です。意外と病気にかかりやすいのです。というのは、放し飼いというのは土間に飼って

るので、自分たちが撒き散らした鶏糞や土壌の虫までついばんで食べてしまい、今ひとつ衛生的な環境とさえいえないからです。また、今では産卵場所を決めてやっているのですが、昔は産んだ卵をなかなか見つけてもらえず、見つけた時には卵が腐っているという事故もありました。

怖い寄生虫

そして、今でも解決できないのが「コクリジウム」という病気です。放し飼いをしていると、土壌中の寄生虫が鶏の消化器官に寄生してしまい、食欲不振・下痢・血便などの症状がではじめ、重篤な場合は鶏が死んでしまったりします。

劣悪な飼育環境の現実

今、アニマルウェルフェアに基づく動物の飼育方法が流行っていますが、日本はそれに関して本当に後進国です。日本は大手業者がスペースの限られた空間で何十万羽という単位で卵を大量生産している訳で、鶏にとってみれば狭くて劣悪な環境で飼われているというのが現状です。当然、病気を防ぐために抗生物質が投与されます。ただし、この方法も場合によっては耐性菌を生み出す可能性もあり、さらにはそれが人間に感染し伝染病が発生する恐れもあります。

ケージ飼いとワクチネーション

私たちはそうした大量生産者向けのエサに入っている抗生物質を使うのが嫌なので、放し飼いではなくケージ飼いで、かつ自分たちでひよこの頃からワクチネーションをしています。

雛から育てる

〇〇鶏卵という業者に対して、我々が養鶏場というのは、すぐに卵を産んでくれる成鶏(せいけい)を仕入れて卵を生産するのに対し、孵化してすぐのひよこを



飼育経過

抗生物質を一切使わずワクチンをうって、健康で安全な母体の鶏を育てています。ストレスをあたえないよう努め、1羽1羽愛情を込めて育てた鶏たちです。

仕入れて成鶏になるまで育てているからです。それはそれで手間のかかることなのですが、一例を紹介すると、大体、雛は1ロット3,400羽くらいで仕入れますが、その仕入れた雛たちに対して室温34~36度、湿度80%くらいでキープし、水の飲み方を教えたり丸2日は最優先でかかりきりになります。その後、ワクチネーションプログラムに則り、獣医師から保証を受けたワクチンを約4ヶ月かけて14種類のワクチンを投与していきます。日ごとに体格を増す鶏、しかも3,400羽全部に、一羽一羽を抱えながらワクチンを投与する作業は成長の過程にもよりますが、なかなかの力仕事でもあります。

他にも作業は色々あるのですが、約120日かけて鶏を育て、いよいよ育成舎から成鶏舎へ移動となります。鶏も重くなっているの、移動もひと苦労です。そして成鶏舎に入れられた鶏たちはカロリーの高いエサを供給され、卵を産み始めます。

鶏への敬意

すごいですよね、生まれてすぐはピヨピヨのひよこだったのが、わずか4ヶ月で体を成長させ、仕事を始めるんです。人間でいったら4ヶ月というのは、ようやく首が座り始める頃でしょうか。そんな期間で一人前に育つ鶏には本当に頭が下がります。

まあ、そんな手間をかけて当養鶏場は抗生物質の使われていない安全な母体の鶏を作るために、自分たちで雛から育てています。

まわりの状況

さて、20年くらい前は県内の養鶏場は35~36軒ほどあったのですが、卵の低価格化が進むとともに、辞めていく農家が後を絶ちませんでした。3K(きつい・汚い・危険)職場の割りには儲からない……老いていく経営者たちも次世代後継者にこんな仕事を継げとは強く言えません。そんなことで、今や養鶏場は庄内で3軒、内陸で3軒、計6件しかありません。その中でもわずかに1万羽前後で経営している板垣養鶏場は、自慢じゃないですが、県内でいちばん小さな養鶏場です。しかも、初生1日目の雛から育てているのは唯一、当養鶏場しかなくなりました。先述のとおり、あまりにも手間がかかり過ぎるためです。

一人前の養鶏家とは

しかし、私の父が言うには、養鶏家というのは取り扱いにくい繊細な雛から育て上げることでようやく一人前と言われるそうです。読んで字のごとく「養鶏家」ですからね。

(中略)

※強制換羽など興味深い話もあったのですが、割愛します。

鶏人生の最後

このように4ヶ月ほどで卵を産み始めた成鶏は、そ

の後1年半ほど毎日働いてもらい、合計1年10ヶ月ほどで鶏人生を全うします。最後はお肉屋さんに取りに来るのですが、既にやせ細って筋肉質になっているため、スーパーで売っているような食用のお肉にはならず、鶏ガラの素として使われるそうです。

鶏というのは、最後の最後まで、文字通り「骨の髄」まで人間に貢献してくれているんですよ。

鳥インフルエンザの脅威

そんな鶏人生を送っている中で最近脅威になってきているのが、「鳥インフルエンザ」です。いちど発生してしまうと、もちろんその農場の鶏たちはすべて殺処分、発生場所から10km圏内においては移動制限が出てしまい、出荷できなくなります。

ついこの間も、今年の第一例目が秋田で発生しました。その時は本当に心配しました。通常であれば、暖かい地方、九州の鹿児島や宮崎などから発生して、ウイル

ス感染は段々北上してくるものです。しかし、北上してくる間に東北地方に差し掛かると鳥インフルエンザの発生はあまり聞かれなくなります。というのも、北国は雪が降るので、湿度があり、ウイルスが飛ばなくなるらしいのです。したがって、東北・北海道では鳥インフルエンザの発生はあまり聞きません。それがこの間の秋田での発生。それはもう青くなりました。しかし、運が良いことに秋田発生事例の時は雨がしばらく続いていましたので、この湿り気でウイルス発生拡大は抑えられたのかもしれませんが。そして2例目からはいつもの如く南方から発生してきたので、いつも通り北上してくる間にフェイドアウトしていくのかなと思っています。

特殊卵について

先ほど、養鶏業界は低卵価で儲からず、次々と辞めていくと話しました。

美 Happy!!
美幸卵
びこうらん

天然『アスタキサンチン』玉子
たまご革命に朗報!!
元気の源 **美容と健康**に!!

アスタキサンチンは **βカロテンの40倍!**
抗酸化作用 (活性酸素の除去) **ビタミンEの1,000倍!**

心筋梗塞や脳卒中の予防に最適

- 元気な鶏が産んだ元気玉子
- 味わい豊かでふっくら
- お日様色の黄身がまぶしい!

アスタキサンチン玉子は

いままでのたまごとの違いを食卓で実感してください!

遺伝子組換えをせず
収穫後農薬をかけない
飼料の卵
安心・安全!

昔ながらの味にこだわった
板さん卵
生で召し上がりください。
違いがわかります!

この悩みから脱却するには付加価値を加え、卵価を上げるほかありません。『推しの卵』を作って通常より単価を上げて売らないとエサ代も払えないからです。業界では「特殊卵」といいます。特別なエサや水を与え、様々な特殊卵が作られ、販売されています。

美幸卵

当養鶏場でも『美幸卵(びこうらん)』と『遺伝子組み換えをせず農薬をかけない原料の餌の卵』というものを作っています。『美幸卵』は配合飼料の中でもグレードの高い原料のエサに「ファイア酵母」というエビやカニの赤い殻から抽出した天然酵母を添加しています。こうすることで黄身が濃くなり、甘みが増します。鶏の母体にも活性酸素を除去してくれるので、鶏の体の不純物を無くし、健康状態も良くなり、死亡率も非常に低くなるという副次的効果も出てきます。

遺伝子……卵

もうひとつは『遺伝子組み換えせず農薬をかけない原料の餌の卵』です。良いネーミングが思い浮かばず、説明書きを名前にしてしまえということで、こんなに長いタイトルの商品になってしまいました。これは、餌の原料となるととうもろこしや大豆が遺伝子組み換えされていない安全な原料だということです。遺伝子組み換えの是非をここでいう気はありませんが、皆さんに少しだけ考えていただきたいことがあります。

例えばキャベツを例にとると、虫食いの跡があるキャベツはみっともなく売れないため、今ではツ

ルっとした虫食いの跡が無いキャベツの販売が当たり前になっています。でもそのキャベツは虫が食いつくとコロッと虫が死んでしまうものなのです。もちろん人間が食べても死にませんが、虫が食べれば死んでしまう。果たしてそれは本当に安全な食べ物なのでしょうか。今すぐには何の影響も感じないでしょうが、この先何十年もこういう作物を食べ続けていったとして、そこに安全の保障はあるのでしょうか。あくまで例えのひとつですが。

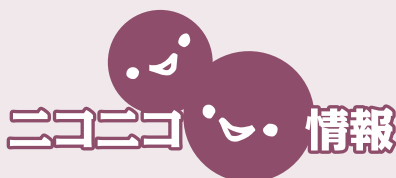
遺伝子組み換えを行っていない大豆やとうもろこしをアメリカから時間をかけて輸送する途中で農薬をかけなくとも腐らない輸送方法が開発されました。当然、相当なコストもかかっています。しかし、お客様の食の安心安全のために数量は限定的ですが、これからもこうした卵を作り続けてまいります。

『ふわっと』で販売中

『美幸卵』と『遺伝子組み換えをせず農薬をかけない原料の餌の卵』は、山形トヨペット東バイパス店敷地内にあるコインランドリー『ふわっと』に卵の自動販売機を設置していますので、ぜひそちらでお求めください。

さいごに

ということで、雛の育成段階から安全な母体に仕上げ、より良い飼料を吟味しながら卵を作っていきますし、顧客のご意見・クレームも真摯に受け止めてまいりますので、寒河江市の板垣養鶏場をこれからもよろしくお願い申し上げます。



高橋恭治／板垣さん、本日は卓話ありがとうございました。ぜひ弊社コインランドリー「ふわっと」にも卵の自販機がありますので、併せてよろしく願い致します。

長橋正人・佐藤太／板垣様の卓話に感謝申し上げます。お忙しい処、本当に有難うございました。来週のクリスマス例会、宜しく願い致します。